

災害対応 情報発信 憩いの場

機能満載 地域拠点ビル



災害対応や情報発信、憩いの場を併せ持つ地域の拠点
「あかりサロン稻毛」



2階のキッチンのコンロは災害時の炊き出し用にプロパンガスを使っている

地域の災害対応や情報発信、憩いの場といった機能を併せ持つ「あかりサロン稻毛」が千葉市稻毛区の京成稻毛駅前にできた。稻毛商店街振興組合が行政や組織の縦割りを超えて建てた3階建ての「コミュニティービル」で、ちょっととした工夫がある。

千葉・稻毛の商店街振興組合、駅前に建設

「第7回目」の看板が建つ1階の入口には、アクリル板で「あかりサロン稻毛」の看板が掲げられ、その奥には、消防団の詰め所として使われていた頃の様子が写された展示が並んでいた。2階の厨房では、プロパンガスによる炊事用コンロで、地元の女性たちが料理を調理している。3階のカフェでは、地元の住民たちがくつろいでいる。このビルは、これまでの消防団の詰め所として使われていた建物を改修して作られたものだ。

2階のキッチンで7日、「厚焼き玉子の作り方」の教室が開かれていた。商店などが今月、様々な無料講座を開く「稻毛得するまちのゼミナール」の一講座だ。講師は宇佐美武夫さん。板前の経験があり、1階のカフェの支配人だ。

「本格的なダシを使わなくて手軽にできます」と作り方を説明する。「卵焼きを返すのが苦手なんですよね」という受講生に「あせらないで」と声をかける。楽しそうだ。

実はコンロはプロパンガス。災害時に炊き出しができる。戸もあり、断水にも対応できる。1階には消防団の詰め所が併設されポンプ車もある。3階は板張りの約30畳で一時避難所になる。外壁には情報発信用の大型スクリーン、地域に高齢者が多いことからエレベーターも備える。延べ床面積は約220平方m。建設費は約8100万円。国や市から約5400万円の補助を得た。

元々は古い消防団の詰め所だった。そこを地域の拠点にする話になったのは、神戸市長田区の商店街への視察がきっかけだ。2007年2月、阪神・淡路大震災から復興した商店街から学ぼうと観察した。が、心に残ったのは、そこで聞いた「商店街としては復活したけど、前は通り端にいたお年寄りの姿が消えてしまった」という嘆きだった。そこで「街の人気が集まる拠点にしよう」と詰め所に様々な機能を持たせることを提案した。

しかし、自治会、商店街、消防団、それぞれを担当する行政機関の意見をまとめなければならない。何度も暗礁に乗り上げたが、商店街活性化の補助金を活用して建設にこぎ着けた。商店街の海宝周一専務理事は「訪れた人が交流できる様々な機能を持っているのも特徴だが、何より地域住民の集いの場になつて欲しい」と話す。

この日も3階で開かれた集会の後、参加した「街の長老」たちが1階のカフェに集まつてコーヒーを飲んでいた。そのうちには「缶ビールがあるどうれいな」と言いだし、小宴が始まった。集いの場の機能は果たしているようだ。（堤恭太）